



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	札幌ポンプ場	階数	地上1F、地下2F
建設地	北区屯田町860-7、-9、861-2、-5	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内・市街化調整区域	平均居住人員	0人
建物用途	工場	年間使用時間	365時間/年(想定値)
竣工年	2025/2/29 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	6,327 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2022年8月10日
建築面積	768 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	2,076 m <sup>2</sup>	確認日	
		確認者	

「配慮シート」に外観パースを張り付けて下さい。

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆ B-

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 79%  
③上記+②以外のオンサイト手法 79%  
④上記+オフサイト手法 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価  
建物全体の[BEI][BEIm]= -  
すべてが非居住用途のため

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.2

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.1

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 建物の高さを抑え、窓を無くし、外壁面熱負荷の軽減に配慮。	<b>A 省エネルギー</b> LED照明器具を採用し、省エネ性能の向上に配慮。
<b>B 省資源等</b> 事業系廃棄物(再利用保管物)保管場所を十分に確保し、再利用に配慮。	<b>D 雪処理</b> 敷地内に十分な除雪スペースを設けた。また主要出入口に庇を設け、屋上南東面に雪庇防止金物を設置した。
<b>C 緑化</b> 建屋周囲に緑地を設け、市条例に基づく緑化を行った。	

4 ほかの認証・評価制度の利用	
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし
BELS認証	なし
LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

**CASBEE札幌2016 (ver.1.4)**  
札幌ポンプ場

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.30			<b>2.1</b>
<b>1 音環境</b>				<b>1.0</b>	0.15			<b>1.0</b>
1.1 室内騒音レベル				-	-			
1.2 遮音				-	-			
1 開口部遮音性能				-	-			
2 界壁遮音性能				-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-			
1.3 吸音				<b>1.0</b>	1.00			
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35			<b>2.0</b>
2.1 室温制御				<b>2.0</b>	1.00			
1 室温				-	-			
2 外皮性能	省エネ			2.0	1.00			
3 ゾーン別制御性				-	-			
2.2 湿度制御				-	-			
2.3 空調方式				-	-			
<b>3 光・視環境</b>				<b>1.3</b>	0.25			<b>1.3</b>
3.1 昼光利用				-	-			
1 昼光率				-	-			
2 方位別開口					-			
3 昼光利用設備	省エネ			-	-			
3.2 グレア対策				-	-			
1 昼光制御	省エネ			-	-			
2 映り込み対策					-			
3.3 照度				<b>2.0</b>	0.38			
3.4 照明制御				<b>1.0</b>	0.63			
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.9</b>	0.25			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質			内装材のほぼ全てにF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00			
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30			
1 換気量				3.0	0.33			
2 自然換気性能				1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			給排気口の位置を異なる外壁面に設け、十分な離隔(6m以上)を確保している	5.0	0.33			
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-			
2 喫煙の制御			建物内に喫煙スペースを設けていない	5.0	1.00			

Q2 サービス性能			0.30	-	-	2.9	
<b>1 機能性</b>			<b>1.6</b>	0.40	-	-	<b>1.6</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1	広さ・収納性		-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応		1.0	1.00	-	-	
3	バリアフリー計画		-	-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		-	-	-	-	
2	リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3	内装計画		1.0	1.00	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	内装材に耐久性の高い材料を採用	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.8</b>	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	重要度係数を1.25とし、建築基準法に定められた耐震性能を25%割り増ししている	4.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準の劣化対策等級(構造躯体等)が等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 耐久性の高い内装仕上材を採用	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源 湿度が高い地下階に、ステンレスダクトを採用	4.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 主要な用途上位2種以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.0</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			4.1	0.30	-	-	4.1
<b>3.1 空間のゆとり</b>			3.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		諸室の床積載荷重を4500N/㎡以上に設定	5.0	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			4.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		構造部材、仕上材を傷めずに更新が可能	5.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		構造部材、仕上材を傷めずに更新が可能	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		構造部材、仕上材を傷めずに更新が可能	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		更新機器の搬出入ルートやマシンハッチ周囲のスペースを十分に確保している	5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		機器の将来更新スペースを確保している	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40	-	-	1.7
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	緑化		2.0	0.40	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	4.1
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	省エネ			-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>	省エネ		3.0	0.13	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>	省エネ	[BEI][BEIm] = - すべてが非居住用途のため	5.0	0.63	-	-	5.0
<b>4 効率的運用</b>			2.5	0.25	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	2.7
<b>1 水資源保護</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	OAフロアを採用	4.0	0.20	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		省資源	高効率な設備機器の採用によりCO2を削減	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>2.4</b>	0.33	-	-	<b>2.4</b>
2.1 大気汚染防止		省資源		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 悪化 雪処理		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		管理用車両の駐車スペースを十分に確保し、出入口の位置を計画されている道路交差点から、できるだけ離れた位置としている	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.50	-	-	
2	振動			3.0	0.50	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				<b>1.6</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				<b>2.3</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	0.7	BEEランク	B <sup>-</sup>
建物名称	札幌ポンプ場				
建物用途	工場				
延床面積	2,076.1 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		<b>レーダーチャート</b>	
地球温暖化対策	最重点項目 <b>省エネルギー</b>	★★★★☆	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理 省資源等への取組 緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★☆☆☆	
	緑化	★☆☆☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 25.3 最低点 7.1 )		<b>合計</b>		<b>18.6点 / 25.3点</b>	
Q1 温熱環境	スコア	2.1 / 5.3	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.0 / 0.0
Q1 光・視環境	スコア	0.0 / 0.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.5 / 2.5
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	12.5 / 12.5
			LR1 効率的運用	スコア	2.5 / 5.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 24.4 最低点 7.8 )		<b>合計</b>		<b>13.7点 / 24.4点</b>	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.7 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.7 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.2 / 3.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 / 1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.8 / 5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 / 4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 19.5 最低点 3.9 )		<b>合計</b>		<b>6.6点 / 19.5点</b>	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.2 / 6.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.2 / 8.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.2 / 3.0			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )		<b>合計</b>		<b>1.0点 / 3.0点</b>	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数